

さわがせ

号数 第 3 4 0 号
発行日 令和 6 年 1 月 14 日
発行所 金光教 韮 教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail: utubo1905@gmail.com



令和 6 年元旦祭におかげをいただき参拝されました (1月1日)

神、人双方向の働きあってこそ

教会長 鍵山公生

私を生かそうとするもの

胸に手を当てるとドキドキと動くものがあります。これは母親の胎内に命が宿ってから止まることなく動いてきた心臓の音です。これが止まると死ぬことになります。そんなことは誰でも知っていることですが、その心臓の働きは全身に酸素が豊富に含まれた血液を供給するためのポンプです。その心臓の働きをもう少し詳しく述べてみましょう。

心臓には左右の心房と心室と 4 つの部屋があって、全身から心臓に戻ってきた酸素の少ない血液を 肺動脈を通して肺に送り、酸素を取り込みます。そして酸素を豊富に含んだ血液を心臓に戻し、そして大動脈を通して全身に送りだします。その働きの元は、心室と心房が規則正しく交互に収縮と拡張を繰り返すことで、



1分間に約60回～80回。一日に10万回以上拍動して、全身に毎分約5リットルの血液を送り出しているのです。

ここで言われる心室と心房が規則正しく交互に収縮と拡張を繰り返すという働きは素晴らしい働きです。これはいったい誰がしているのかを考えたことがありますか。皆さんはそれは自然の働きだというでしょう。その通り自然の働きそのもので、その偉大なる働きをしてくださるのが天地の神様の尊いお働きなのです。

私たちには神様の姿や形、そのものは見ることはできませんが、しかし心で感じるができるものです。それは ちょうど私たちの周りに空気があることはよく知っていますが、肉眼で見てもわからないのと同じです。言い換えれば誰も触れてもいないのに木の枝がゆれる姿を見て、空気や風があることに気づくのと同様で、この世に神様のお働きがあっても目で見ることはできないので神なんて無いと言うのです。

繰り返して申しますが、心臓の働きによって血液が動脈を通して全身に送られ、手足の先まで酸素を供給し、静脈を通して酸素の少なくなった血液が心臓に戻るので。しかし心臓の拍動だけでは力が弱く、それを助けるためには手足のマッサージや運動が必要になるのです。ですから手先を動かしたり、マッサージをしたり、あるいは寒くなると手足を温めたりして、心臓へ血液を戻すことを自然としているのです。

先日新聞の記事に、こむら返りになるのも血液の循環が悪いと起こりやすく、足の指でゲー、パー運動をすれば血液の流れがよくなって、こむら返りになりにくいと書かれていました。それでこそスムーズに血液は心臓に戻るのです。それらのことから考えると、体の端々での運動によって、心臓へお返しをしているわけです。ここに神様のお働きに相通ずるものを感じるのです。



神様のお働き

神様はいつも人間を始め、地球上の動物、植物などあらゆるものを生かそう、生かそうとしておられるから人間も生きることができるのです。人間は野菜や果物などの植物、或いは魚や鶏、牛、豚などの動物の肉類を食べて、その働きで血液が製造されています。そして肺から酸素を吸収し、その血液を心臓のポンプにより身体の隅々まで届け、体が活動するための酸素や栄養を送り届ける働きをしているのですから、今度は体の隅々から心臓へ戻す働き、すなわち神様にお世話になった働きにお礼返しをすることが必要なのです。それはどうすれば出来るのかと考えました。

心臓へ戻す働き、すなわち神様へのお礼

私たちが朝、目を覚ました時に、アッ、目が見える！。今日も命をいただいている！。と感動し、目が見えることにありがとうとお礼をします。もし目が見えなかったら、もし心臓の鼓動がなかったら、もう私というものはこの世のものではないのです。

そして私たちの手に触れるもの、目に見えるものに囲まれています。

ベッドさんありがとうございます。布団さんありがとうございます。時計さんありがとうございます。パジャマさんありがとうございます。そしてトイレへ行って用を足したり、顔を洗うのに水やタオルのお世話になり、身につける下着、洋服にも、雨露を凌がせていただく家にも、というように、私たちは身の回りのものいっぱいお世話になっています。

家族にも、友人にも、お店の人にも、多くの人々のお世話になっています。その一つづつ感謝することが神様に対してお世話になっていることへのお返しではないでしょうか。

信仰するといいますが、先祖に手を合わせることだけを信心と考えている方も多くおられますが、それもその一つですが、難病になって医者から手を離されたときとか、進学、就職などで神仏に頼るしかないといって手をあわすのを、「かなわぬ時の神頼み」といいますが、それも信心の一部ではありますが、金光様の道ではそれだけが信心ではありません。日常の信心生活とは、私たちが限りなく天地の神様のお世話になっていることに気付き、その御礼を申しあげることになります。

上記に示したあらゆるお世話になっている物、人、事柄、それらに感謝することは心臓の働き、いわゆる神様の働きへの返礼であり、すべてのものを生かしてやまぬ神様のお働きのお手伝いでもあると思います。そのことによって心の中では、日常を嬉しく、面白く、ありがたく生活することができることに繋がるのです。

靱布教120年の年(11月17日)

毎日をいかにして喜びの生活を進めていけるかは、神様のお働きを知り、神様へのお礼から始まるのです。

今年は靱布教120年の年です。初代教会長先生がご自分の難病から救われ、そのお礼にお道の先生となり、ご自分のおかげを受けられた事実を手本にして、



今年も、玄関に彩られた
教会長先生お手製の門松。

金光様の道を世の人々に伝え、より多くの人の助かりを祈り続けて来られての靱教会です。

神様の願いを成就させて頂くために、自分の助かりのみに終わることなく、世の人々が助かり立ちゆくよう、祈りをもって活力ある生活を歩ませていただきましょう。



初代靱教会長和田安兵衛先生 80 年祭が、 ありがたく奉行

去る 12 月 3 日、午前 10 時半より、初代靱教会長 和田安兵衛先生 80 年祭が、教会長先生ご祭主の元、祭員に道隆先生、金谷佐智さんによって仕えられました。

祭典後 10 年前の 70 年祭時に制作された「和田安兵衛先生のご生涯」のビデオが放映され、先生の功績を忍ばせていただきました。続いて教会長先生のご挨拶があり、その後参拝者がそろって集合写真の撮影を行いました。

参拝者にはお弁当と御教え入りのせんべいが直会として配布され、2 階集会室にて会食が行われました。



さわかぜは、靱教会ホームページからもお読みいただけます。



金光教うつぼ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>

越年祭・ひとかた行事

12月23日、月例霊祭並びに、越年祭が執り行われました。越年祭は、一年間の御礼と、これまでに知らず知らずに犯した罪汚れをお取り払いいただく神事です。祭典後、ひとかた行事も行われその後、準備いただいたぜんざいをいただきました。



祭典後、皆でぜんざいをいただきました。

靱布教 120 年祭記念歌「永遠の祈り」が完成

本年は和田安兵衛先生が靱の地に布教されて 120 年の記念の年をお迎えいたしました。そして 11 月 17 日（日）には、記念祭をお仕えされることが決定いたしました。その記念の年に、鍵山唯志さんによる作詞作曲で、記念歌が制作され、その曲を記念祭では皆で御礼の気持ちを込めて歌いたいと思います。曲につきましては、右の 2 次元バーコードをスマホで読み取ってお聞きいただけます。歌詞も掲載いたしますので、ぜひ記念祭では皆で歌いましょう。



あゝここに金光教靱教会
 あゝここに金光教靱教会
 自ら見いだす我がおかげ
 幸福はその心次第
 その不条理の不合理は
 今こそ道理の学を取り
 いまこそ道理の学を取り
 日々難儀の起り来
 学問知識の世といえど

あゝ金光教靱教会
 歩んで示せば天地の理
 それならはいざ永遠の道
 その御前には僅か一時
 それでも天地の大御神
 ありがたき百二十の節
 多くの一年積み上げて
 多岐の一年積み上げて

あゝ金光教靱教会
 変わることに金文字
 広前には欠かさずともなく
 毎日拝詞の響き
 起こりし思いは受け継がれ
 大阪住吉の地から

「永遠の祈り」〜靱布教百二十年記念歌

作詞・作曲 鍵山唯志

信徒会長新年のご挨拶 渡辺 秀孝

新年あけましておめでとうございます。

信奉者の皆様には良きお年をお迎えになられました事とお慶び申し上げます。

今年は、布教120年の記念の節の年、11月には記念大祭が仕えられます。

節の年、草木は節から新しい芽が出て、大きくなっていきます。新しい「目標・願い」をもって、それを実現する「おかげ」の年にしたいですね！

皆様のご多幸をお祈りしまして挨拶とさせていただきます。



令和5年度信徒会収支決算報告

会計 山下 恭平

収入の部

科目	金額	摘要
会費	165,600	令和5年度
寄付金	53,000	寄付者1名他匿名
前年度繰越金	414,639	令和4年度より
合計	633,239	

支出の部

科目	金額	摘要
新年会費	9,827	
大祭費(春)	73,619	(直会費、典楽会寄付、消耗品)
”(秋)	60,238	講師御礼、その他)
連合会費	15,000	第一連合会信徒会拠出金
賛助金	20,000	少年少女会
布教部講師費	48,000	前期(24,000)後期(24,000)
敬老の日お祝	8,147	
次年度繰越	398,408	令和6年度へ
合計	633,239	

さわかぜ賛助会

さわかぜ賛助会員として、多数の方々のご協力により、機関紙の継続させていただき、令和5年は7回の発行をさせていただくことができましたことは、誠に有り難いことでございます。

本年もより一層、皆様の機関紙としてお役に立ちたいと念願しております。

今年度賛助会員としてお申し込みいただいた方は次の方々です。(敬称略)

なお、令和5年度の収支決算報告は次ページのとおりです。

ご協力ありがとうございました。

さわかぜ収支決算報告 (令和5年1月～12月)

収入の部

項 目	収 入	備 考
前年度繰越	7,185	令和4年度より
賛助会費	308,000	308口
準備金より	0	
合 計	315,185	

支出の部

項 目	適 用	支 出	備 考
印 刷 費	外注印刷代	40,433	第333号～339号 印刷用紙購入
	用紙購入代	16,230	
	記録及び写真	6,300	
	印刷運送料	1,760	
通 信 費	送料切手代	61,020	
	電 話 代	1,000	
消 耗 品 費	ファイル・封筒	9,509	
	プリンターインク代	12,360	
雑 費	インターネット代	45,972	
	光 熱 費	8,000	
	参考資料等	5,560	
備 品	コピープリンター	37,800	買い替え
	ファイル	3,004	
準 備 費	機材購入準備費	60,000	累計53万円
繰 越 金	繰 越 金	6,237	令和6年度へ
	合 計	315,185	

「愛の募金箱」ご協力感謝！

広前に設置された「愛の募金箱」に寄付されました皆様からの令和5年度募金と、ボランティアによる古紙回収の収益金を合わせた金額は、126,363円でした。日本赤十字社大阪支部へ10万円送金させていただき、青い鳥点訳グループ（点字ボランティア）へ2万円寄付いたしました。

皆様のご協力に感謝申し上げます。今年度もご協力お願いいたします。

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして
ご慰霊させていただきます。

ご都合お練り合わせをただかれ、ご参拝下さい。
(1月21日・2月24日ともに午前10時30分より)



教会行事の日程及び時間の変更について（お知らせ）

教会の祭典はすべて午前10時30分より執り行います。

また、毎月24日に執り行っておりました月例霊祭は、24日前後の土曜日もしくは、日曜日に変更いたします。祭典日及び祭典時間をご確認いただき、ご参拝ください。



令和6年1月

14日（日）初月例祭執行 午前10時30分

祭典後、信徒会総会・新年会

15日（月）

～21日（日）寒修行期間

●定時のご祈念（午前6時、午前10時）に参拝しましょう。

19日（金）信徒共励会 午前10時30分

21日（日）月例霊祭執行 午前10時30分

祭典後教話 講題「喜びの信心」

講師：天満教会 森田浩志先生

2月

1日（水）月例祭執行 午前10時30分

3日（土）ご本部月参拝 午前6時教会出発

4日（日）うりわり墓参 午前7時

4日（日）もちつき大会 節分豆まき 午前10時

11日（日）月例祭執行 午前10時30分

16日（金）信徒共励会 午前10時30分

23日（祝日）道の子アイススケート大会
浪速スケート場 午後1時30分

24日（土）月例霊祭並びに

二代教会長和田こゆみ先生例年祭（53年）執行

午前10時30分

祭典後教話、大阪府連盟布教部講師

3月

1日（金）月例祭執行 午前10時30分

年間行事予定は、スマートフォンで
二次元バーコードを読み取って確認できます。→

